

令和6年1月5日
福岡海上保安部

問合せ先

福岡海上保安部 交通課

課長 高橋 謙慈

Tel 092-281-5867 Fax 092-281-5889

令和5年の船舶海難・人身事故発生状況（速報値） ～マリンレジャーに伴う海浜事故者数が増加～

令和5年（速報値）

※ 船舶海難36隻！ → 前年より3隻の増加！！

（プレジャーボートの海難が、29隻（前年より11隻増加））（詳しくは主な事故事例へ）

※ 人身事故43人！ → 前年より7人の増加！！

（マリンレジャーに伴う人身事故が、16人（前年より7人増加））（詳しくは主な事故事例へ）

※ 令和5年の値は速報値であり、今後変更になる場合があります。

事故内容別発生状況（福岡海上保安部管内）

船舶海難（隻）	区分	令和5年	前年比	人身事故（人）	区分	令和5年	前年比
	衝突	10	+2		海中転落	9（うち死亡1）	-1
単独衝突	0	-3	負傷	4	+1		
乗揚	4	-1	溺水	4（うち死亡2）	+1		
浸水	2	-3	帰還不能	13	+8		
転覆	2	+2	病気	2	±0		
運航不能	18	+6	自殺	11	-2		
合計	36	+3	合計	43	+7		

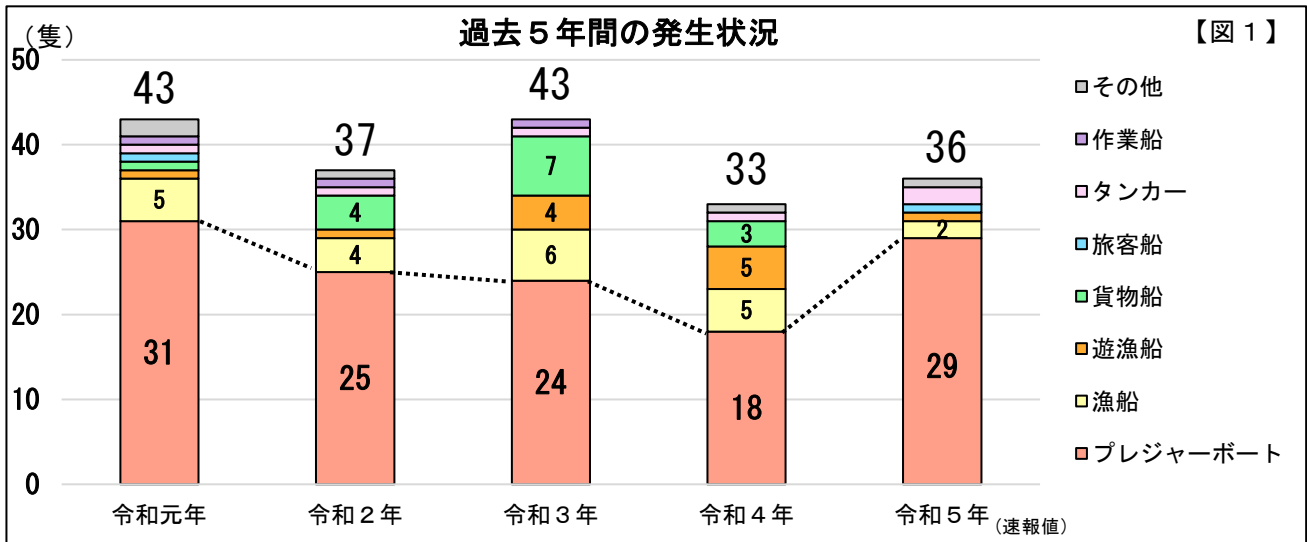
本紙はダウンロード版です。

1. 船舶海難発生状況（速報値）

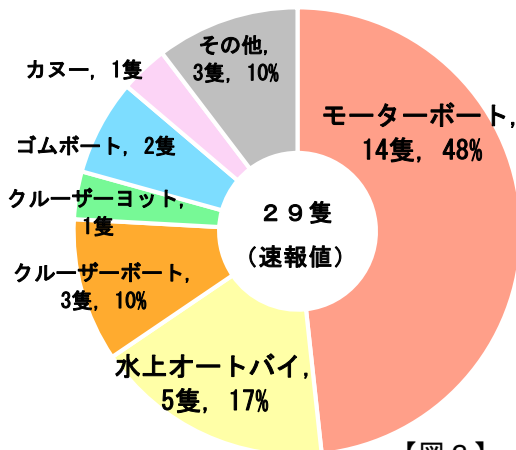
(1) 傾向

令和5年中に発生した船舶海難は「36隻」と前年より3隻増加し、船舶種類別では、プレジャーボートの海難が「29隻（81%）」と最も多く、前年より11隻増加となりました。

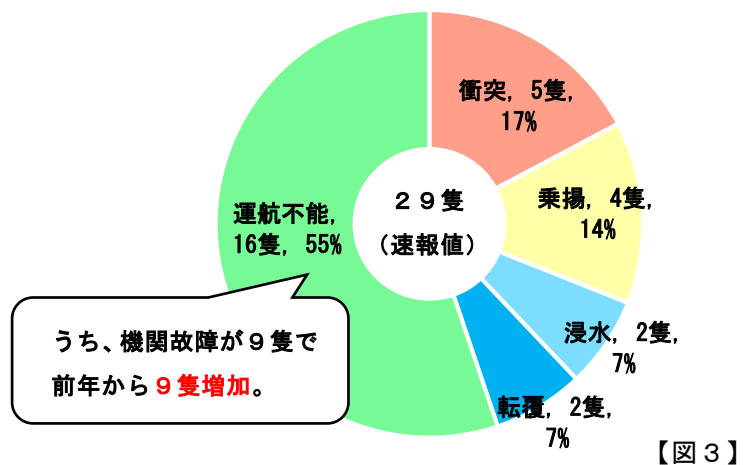
また、プレジャーボートの船舶用途別では、モーターボートの海難が「14隻（48%）」と最も多く、前年より5隻増加となりました。【図1、図2参照】



令和5年のプレジャーボート海難（船舶用途別）



令和5年のプレジャーボート海難（海難種類別）



(2) 事故事例

事例：機関故障

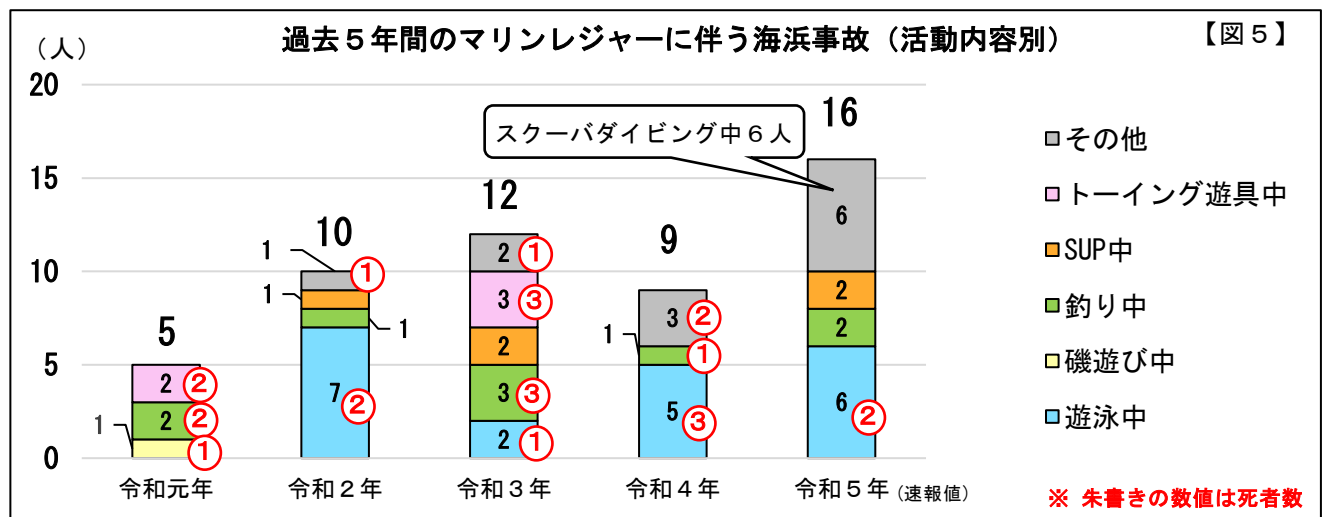
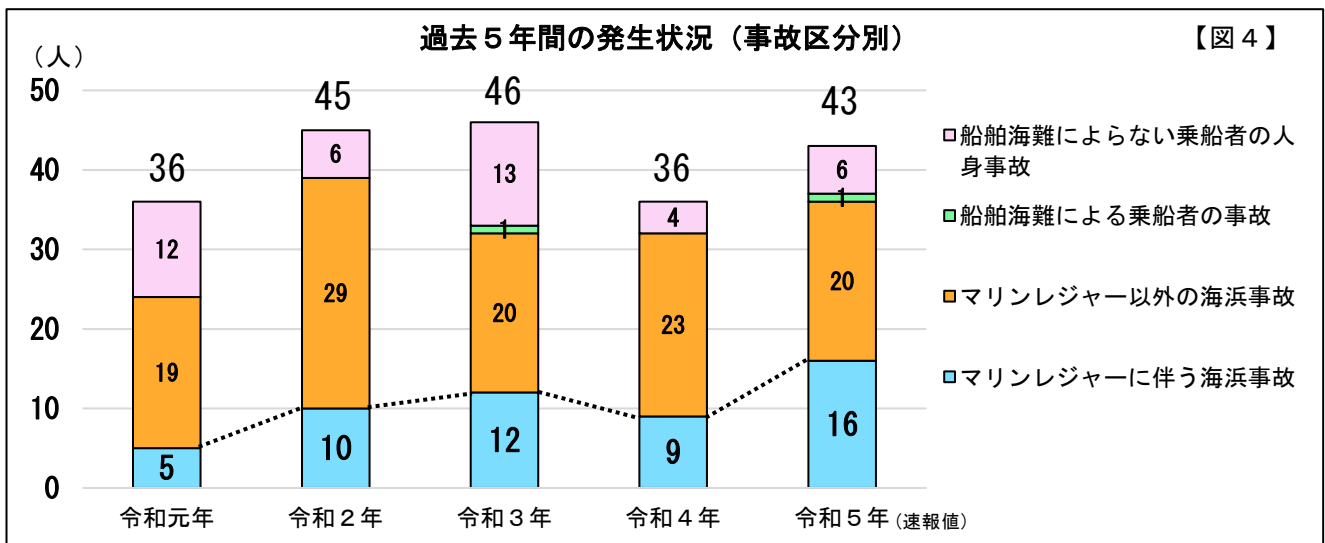
事故概要：福岡市東区の志賀島北西沖を航行中のプレジャーボートが、突然、排気管から黒煙が上がるとともにエンジンの回転数が落ち、航行不能になりました。乗船者2人は118番通報にて救助を要請し、プレジャーボートは巡視船に曳航救助されました。その後の調査で、エンジンを冷却するための海水管が破損しており、機関室内に冷却海水が流入したため、冷却不良によりオーバーヒートしたものと推定されます。

2. 人身事故発生状況（速報値）

(1) 傾向

令和5年中に発生した人身事故は「43人」と前年より7人増加となり、事故区別では、マリレジャーに伴う海浜事故が「16人（36%）」発生し、前年より7人増加となりました。

また、令和5年中に発生したマリレジャーに伴う海浜事故の活動内容別では、遊泳中の事故が「6人（38%）」発生し、前年より1人増加となったほか、スクーバダイビング中の事故が「6人（38%）」発生しました。【図4、図5参照】



(2) 事故事例

事例1：遊泳中の死亡事故

事故概要：福岡市中央区所在の福岡PayPayドームで行われた高校の体育祭に参加していた男子生徒が、体育祭終了後に同級生とともに海水浴をするため、同市早良区のシーサイドももち海浜公園を訪れ、同公園の防波堤から同級生数人と一斉に海に飛び込んだところ1人が溺れました。同公園で監視業務に従事していたライフセーバーが異変に気付き、海底に沈んだ男子生徒を砂浜に引き揚げ、救助しましたが、翌日、搬送先の病院で死亡が確認されました。

事例 2 : スクーバダイビング中の帰還不能

事故概要 : 船長を含む 8 人乗船のダイビング船が、福岡県福津市所在の恋の浦海岸沖に錨泊後、船長ら 6 人が海中に入り、ダイビング中にダイビング船が走錨したことから、船内に残った乗客 2 人が身の危険を感じ、118 番通報にて救助を要請しました。
ダイビング船は、約 3,000m 流されたところで福岡海上保安部から救助要請を受けた水難救済会の救助船に曳航救助されました。
取り残されたダイビング中の 6 人については、水難救済会の救助船及び民間協力者の水上オートバイによって全員救助されました。



TOPIC: 離岸流による帰還不能 (遊泳中)

糸島市の大口海岸において、1 日で 10 人の遊泳者が離岸流により沖合に流され、付近にいたサーファー等が 10 人全員を救助する事案が発生しました。
<本件人身事故統計外>



大口海岸での遊泳状況



大口海岸に設置された「遊泳！危険！」の看板